

韓統連大阪通信紙

自主

チャジュ

325号

2018年3月号

자주

発行 在日韓国民主統一連合
(韓統連) 大阪本部

〒544-0034

大阪市生野区桃谷3-13-6

TEL06-6711-6377 FAX06-6711-6378

毎月1日発行 購読料 年間3000円

郵便振替 00940-7-314392

民族時報社 大阪支社

平和の聖火を絶やしてはならない ～平昌から始まる新しい南・北の平和と統一への道～

■感動の涙

平昌オリンピックが2月25日に閉幕した。オリンピックが、今回ほど「平和の祭典」にふさわしい舞台を提供した事はなかっただろう。

昨年未まで朝鮮半島は朝米の対決が激化し、緊張が高まる一方であった。誰も仲介に入れず、戦争の危機が憂慮される危険な状態であった。それが平昌オリンピックを契機に情勢が劇的に転換した。南北の和解と交流が急速に進み、一触即発の事態は回避された。

開会式では南・北の選手が統一旗を掲げて合同入場し、大歓声のスタンディングオベーションで迎えられた。南北の選手がひとつの聖火を持って聖火台に駈上っていく姿は、これからの

新しい時代、平和と統一への未来を象徴するものであった。オリンピック初の南北合同女子アイスホッケーチームには、世界のメディアが注目した。初戦のスイス戦は「0対8という大差の一方向的な試合で、開始から終了まで、これほど熱烈な応援が続いた試合は見たことがない。」と西側のメディアが驚くほどであった。平和と統一への思いが、合同チームの応援に熱く込められていた。

北朝鮮の応援団は試合の応援のみならず、競技場外でも様々なパフォーマンスを繰り広げ「私達はひとつだ」と訴え、平昌市民の拍手をあびた。北朝鮮の芸術団の公演では、文在寅大統領の隣で鑑賞した金永南(キム・ヨンナム)最高人民会議常任委員長の涙に多くの国民が感動した。祖国が分断されて70年、初めて訪れた南の地で、統一の歌を

聴いて90歳の老政治家の胸に込み上げてきたものは何だったろう。金与正(キム・ヨジョン)特使は青瓦台での会談で文大統領に金正恩(キム・ジョンウン)委員長の親書を手渡し、ピョンヤンへの訪問を要請した。文大統領は「環境を整え、実現させよう」と前向きに回答した。世論調査では国民の77%が南北首脳会談を支持している。第3回南北首脳会談の可能性が一気に高まってきた。



▲開会式で合同入場する南北の選手団

3月9日からはパラリンピックが始まる。パラリンピックではどんな感動的なドラマが展開されるのか、世界のメディアが注目している。

■平和の聖火は消えない

平昌オリンピックは、朝鮮半島の戦争の危機を回避した「平和オリンピック」として

永く歴史に記憶されるであろう。

そして平昌は、冬季オリンピックの開催都市としてだけではなく、南北の和解と交流の都市として、平和と統一の拠点として、これからも大きな役割を果たしていくであろう。江原道の崔文洵(チェ・ムンスン)知事は、2021年のアジア冬季大会の南北共同開催を提案し、北朝鮮の張雄(チャン・ウン)IOC委員は「十分可能」とコメントした。

2016年の秋の光化門広場のキャンドルは、2017年にキャンドル革命となり、2018年、平昌オリンピックの平和と統一の聖火となった。その炎は、オリンピックが終わっても消えることなく、祖国の平和・統一にむけてより一層激しく燃え続けるだろう。(隆)

韓日民衆連帯運動を一層発展させ、 朝鮮半島の平和統一を実現させよう 韓統連大阪本部「連帯の夕べ」

平昌オリンピックを契機に南北の和解・交流が進む中、韓統連大阪本部の主催で「連帯の夕べ」が2月11日(日)、KCC会館(大阪市生野区)で開催され、会員及び地域同胞、日本の労働組合・市民団体代表などが参加した。

連帯の夕べでは、金隆司(キム・ユンサ)韓統連大阪本部代表委員が主催者挨拶を通じ「今年に入り、平昌オリンピックへの北朝鮮代表団の派遣をはじめ南北の和解に向けた動きが進んでいる。私たちはこの状況を定着させていくために、今後、様々な取り組みを行っていきましょう」と語った。

次に、孫亨根(ソン・ヒョンゲン)韓統連中央本部議長が記念講演を行った。



▲連帯の夕べには、多くの同胞・日本人が参加した

孫議長は最初に、現在の朝鮮半島情勢の変化について「北朝鮮が昨年後半に対米抑止力を完成させたことで、南北関係改善に尽力するに至った。その意志の表れとして、平昌オリンピックに選手団・高位級代表団などを派遣するに至った」と語った。

そして、今後の展望として「北朝鮮の核・ミサイル開発問題をめぐり、南北間の認識の差異はあるが、南北首脳会談が実現されれば解決の道筋が開かれるとともに、6・15共同宣言・10・4宣言以上の合意事項も期待することができる」と述べ、「朝鮮半島の平和と統一に向け、韓日民衆連帯運動をより一層強化していきましょう」と語った。

記念講演終了後は懇親会が開かれ、食事を交えながら映像資料の上映、バンド演奏、そして、2月8日～10日まで平昌オリンピック南北共同応援団に参加した金里紗(キム・リサ)学生協会長、安

未紗(アン・ミサ)副会長から感想が語られ、懇親会の雰囲気盛り上がるのと同時に、各団体代表からのスピーチでは、韓日連帯運動の強化・発展に向けた決意などが語られ、連帯の夕べは終了した。

韓国ゲストを招き、 朝鮮半島情勢について認識を深める 南北対話を積極的に支持し、米韓合同軍事演習 の中止と米朝対話の再開を求める2・23集会

2月23日(金)エルおおさか(大阪市中央区)で、「南北対話を積極的に支持し、米韓合同軍事演習の中止と米朝対話の再開を求める2・23集会(主催:同実行委員会)」が開かれた。



▲朝鮮半島情勢について講演する韓忠穆代表

集会では、日韓平和連帯共同代表の山元一英さんが主催者挨拶を行った後、「2018年激変する情勢と韓国民衆運動の方向」をテーマに、韓忠穆(ハン・チュンモク)反戦平和国民行動代表が講演を行った。韓さんは初めに「今、朝鮮半島情勢は大きく変化している。朝米関係は北朝鮮が核戦力を保有することで、米国は北朝鮮に手出しができない状況となり、朝米が対等な関係になってきている」と指摘した。

続いて、平昌オリンピックについて「多くの民衆が北朝鮮選手団の参加を歓迎して、南北の選手に熱烈な声援を送っている」と述べ、最後に「朝鮮半島問題の根本原因は、米国の影響力から脱することだ。今年8月15日には、駐韓米国大使館を包囲する民衆総決起大会の準備をしている。ここに日本からも多くの人々が参加して共に闘っていきましょう」と訴えた。講演終了後は、質疑応答が行われ、最後に日韓平和連帯顧問の永久睦子さんが閉会挨拶を行い、集会は終了した。

【投稿】 韓国で急速に広がる「#Me too」運動 積弊清算は女性たちから始まるのか？

「#Me too (私も)」キャンペーンとは、性暴力(セクハラ・強姦など)の女性被害者らがパワハラなどによって沈黙を強いられてきた事実を、ハリウッドの女優らが「私も被害者」と暴露して名乗り出たことから始まりました。まさに1991年8月14日「日本軍性奴隷」だった過去を告白した金学順(キム・ハスン)ハルモニの勇気ある告発と同じ性暴力被害の告発です。

韓国でも性暴力被害者らが相次いで告発を始めました。社会に根付いた「家父長制」の影響が色濃く残る韓国社会で、女性たちがこれ以上黙ってられないと声を上げ始めました。

今年1月29日、JTBCのニュースルームに実名で現役の女性検事が上司からセクハラ行為を受けたと証言しました。その反響は大きく韓国社会を揺るがすほどの事態に発展しています。

徐志賢(ソ・ジヒョン) 昌原

(チャンウォン) 地検統営支庁検事の証言によれば、事件は2010年10月30日、ある通夜式場で起きました。当時、李貴男(イ・ギム)法務長官に同行してきた安兌根(アン・テグン)法務部政策企画団長から「横に座るよう」言われ、腰や臀部を撫でられるなどのセクハラ被害を受けたとのことです。

さらにこの事を上司に相談しても黙殺され、人事考査でも不利益を受けたと語り、検察内部の性暴力に対する認識が低く、告発を覆い隠す文化があったとして、表面化することが難しかった経緯についても触れています。

この様なことは以前から語られてきましたが、告発された側が現職の幹部検事であったことで衝撃も大きく、同じような被害を受けた女性たちが勇気を持って告発する事態となりました。

演劇界・芸能界・文学界から宗教界に至るまで、女性たちの告発は続いています。韓国でノーベル文学賞候補に挙げられている高銀(コ・ウン)氏も、その言動が女性を卑下していると告発されるなど、女性たちが抑圧され、うっ積された心情の吐露が相次いでいます。

女性たちは、被害の実態と被害の事実を明らかにできない韓国社会の深刻な実態を併せて告発しています。セクハラに加え、パワハラで沈黙を強いられたと語っています。

文在寅大統領は、2015年「韓日慰安婦合意」が被害者の立場と心情を反映していないと結

論し「慰安婦」問題は韓日問題であるとともに「普遍的価値」と「女性の人権」問題だと語り、安倍首相に国際基準にそった措置を促しました。翻って韓国社会も今、社会的課題として女性の人権問題に真剣に取り組むことが求められています。



▲「#Me too」運動を応援する女性たち
プラカードには「文化界#Me too 観客が応援します #WITH YOU」と書かれている

女性の「性」が男性によって「価値」化され、女性の「性」を介して男性が代価を得る。そんな男性中心の思考と社会の仕組みが、まさに韓国の「積弊」の一部だと韓国社会は気づき、変革が必要なものを感じ取っています。もう見て見ぬ振りには許されません。男性も勇気を持って社会の不条理を告発しよう。それがキャンドル革命の要請であり、古い体質から抜け出すことが「民族再統合」への第一歩です。

女性たちの勇気ある告発は、日本軍「性奴隷」にされた女性たちの存在と併せて、女性の人権について真剣に考察する機会となっているばかりでなく、男性も含めた人権の大切さと、社会の積弊を解消する好機を迎えていると言えます。女性たちが再び韓国社会を変える原動力となっています。(鐵)

平昌オリンピック南北共同応援団 韓青・女性会・学生協代表団 感想文

2月8日～12日まで、平昌オリンピック南北共同応援団 韓青・民主女性会・学生協代表団が平昌を訪問しました。今号の自主では、関西から代表団に参加した方々に感想文を書いて頂きましたので、掲載します。

統一への熱気とスピード感を実感

学生協会長 金里紗(キム・リサ)

最初、平昌への派遣団のお話を頂いた時、真っ先に思い浮かんだのは、シドニー五輪の合同入場を当時とても喜んでいて周囲の大人たちの姿でした。小学生だった私はよく分からなかったけれど、同じような、統一に希望を抱けるような感動を自分も青年になった今、体感できるのだと思いました。今回行くことを決めたのは、それをより直に体感したかったという部分が大きいです。

4日間を通して刺激の連続だったのですが、中でも最も強く印象付けられたのは「民族和解ハンマダン」で体感した統一への熱気と、連帯の強さです。私にとっては初めての国内の統一行事で想像以上の人の多さと熱気に圧倒されつつも、韓青活動で知った歌を会場全体で歌った時や、群舞の時には日本での活動との繋がり、連帯を強く感じました。また私たちの発表では一言一言に大きな歓声が上がり、最後の群舞が終わった時には国内の学生団体の方々が「映画ウリハッキョ見ました！대박！」と声をかけてくれ、住む場所の違う同胞同士、お互いに影響を与えあっているのを感じ嬉しかったです。会場には韓国の学生・若者が想像以上に多く、若者が自分達らしい、そのままのあり方で統一への支持を表現している姿も印象的で刺激を受けました。

日本に帰ってくると早速、平昌五輪を「政治利用」と揶揄する言論ばかり目に入り、改めて大きなギャップを感じています。ですが、今回実感として得た統一への熱気とスピード感、連帯感を忘れないように、自信を持って統一を支持していき、特に在日青年学生に向けて前向きに発信していこうと思います。

平昌五輪応援団に参加して

学生協 高栄螺(コ・ソラ)

平昌オリンピック応援団に学生協から参加させていただきました。

初日はオリンピックの開会式を見ましたが、オリンピックにあまり興味を示したことがなく、初めてまともに見ました。様々な国の選手が入場する中、南北合同チームが入場してきた時、国旗ではなく統一旗、国歌ではなくアリランが流れ、合同チームなのは知っていましたが、こういう形に

なるのかと思いました。一緒に見ていた人たちも、オリンピックの司会者も物凄く喜んでいて、表立って統一を願う人がいるのだと初めて実感しました。聖火リレーで南北の選手が一緒に聖火を繋ぐ姿を見て、これからこの国はどうなるのかと思いました。

2日目は軍事境界線を初めて

見ました。教科書で見たことがあるだけの場所を、実際に目にするようになるとは思いませんでした。使われた実弾で作られた平和を願うオブジェクト、階段や展望台を埋め尽くす統一の願いが書き込まれたリボンがとても印象的でした。

その後「民族和解ハンマダン」に参加しました。体育館いっぱい人が集まっており、南北合同チームの発表から、この短期間でこれでだけの人が集り、その上これだけの若い世代が南北の統一を考えているのを知ることができました。ステージに上がり発表させていただいた時は、他国にいて、現状をあまり知らない自分たちでも歓迎してくれているかのように感じました。

短い時間でしたが、普通では経験できない濃い体験をすることができました。これからの南北の統一がどうなっていくのか、オリンピックがよい機会になればいいと思いました。



▲「民族和解ハンマダン」で歌を発表する
韓青・学生協の代表団

夢を叶え、統一を実感

韓青中央本部副委員長 李俊一(イ・チュニル)

平昌オリンピック応援団に参加することになりました。今回はこれまでの訪韓事業とは別種の不安感を抱えたまま参加することになりました。というのも、今回の訪韓では出発当日の段階でさえ、詳細な日程が決まっていなかったからです。今回の代表団の実務担当者としては、なにも分からないまま仲間たちを連れていくのは不安でいっぱいでした。

しかし、実際に韓国の地に足を踏み入れた瞬間から、私の不安は解けていきました。多忙な中で仁川空港まで迎えに来てくれた南側の青年たち。知り合ったのが去年の事なのに、お互い古くからの親友のように打ち解けていることに「同志」という単語がぴったりとはまりました。

今回、残念ながら競技場の中に入りオリンピックを観戦することはできませんでしたが、歴史的な「統一オリンピック」の熱気を南側の同胞たちと共有することができたことは、とても大きな出来事でした。

オリンピック自体の感動もそうですが、今回参加した北側の人々と、南側の人々との急速な「雪解け」は、まさに統一の実現を確信させるものであったと思います。

また私たちが出演した10日の「民族和解ハンマダン」も、とても感動的でした。私たちがつたないウリマル(母国語)で統一への思いを語るたびに、観客席から大声援が起こります。私たちが「ハナ(ひとつ)」という歌を歌っている時、観客席の一番前の人々が涙を流しながら一緒に歌ってくれました。見れば今回歴史的な訪韓を果たした朝鮮総連の応援団の方々です。

大阪で統一運動をしていて、朝青の仲間たちと語り合った「夢」があります。それは、いつか私たち韓青が朝青の仲間たちを南に連れていき、ソウルの街を案内すること。その夢がこんな形で、唐突に叶うとは。驚きと感動で胸が詰まりました。

あらためて今回の訪韓にご支援して頂いた皆様にお礼を申し上げます。もう二度と統一への歩みを後戻りさせないために、今後も尽力していきたいと思います。カムサハムニダ(感謝します)。

2千名の市民と共に「KOREA」と叫ぶ

韓青京都本部委員長 韓成祐(ハン・ソウウ)

今回、私は平昌オリンピック応援団に参加し、「統一は必ず実現する」ということを実感しました。今まで止まっていた、できなかったことが実現した瞬間を目の当たりにし、これからは想像もしていなかったことが実現していくのだと確信しました。

南北が初めてオリンピックで合同入場した2000年のシドニーオリンピックの時、私はテレビで開会式を見ていました。その時は子どもながらに「これから祖国が統一する」と思いましたが、2008年に李明博政権が発足して以降、南北関係は冬の時代が続いていました。この間の冬季・夏季のオリンピックに南北は別々に出場し、か

つて統一旗の下で喜びを分かち合った姿を覚えているだけに、とても歯がゆい思いをしたことを覚えています。

それだけにオリンピック開会式で12年ぶりに南北の選手が「KOREA」として入場する姿は10年前の続きを見ているようで、私たちの祖国の本来あるべき姿が取り戻されたと感じました。

翌2月10日夜には2千名の市民とともに、「KOREA!」を叫び、統一旗を振り、女子アイスホッケー南北統一チームを応援しました。政治的・思想的対立もなく、純粋な気持ちで統一チームを南北海外の同胞が一丸となって応援するこの空間こそ、私たちの目指してきた場所であると感じました。

これからも日本で暮らす私たち日韓人青年だからこそ伝えられる、希望にあふれた統一祖国を実現するため、これからも運動に邁進していきたいと思っています。



▲案内してくれた南側の青年と記念写真

◆◆韓国映画紹介◆◆

達磨よ遊ぼう！

前号は韓国ドラマを紹介しましたが、今号は韓国映画を紹介します。題名は「達磨よ遊ぼう！」です。

物語はいたってシンプル。山奥のある寺院で修行しているチョンミョンをはじめ5名の修行僧たちのもとへ、ジェギユを筆頭とするヤクザ者5名が突然侵入してきます。寺の住職はジェギユたちの滞在を許しますが、ジェギユたちの勝手気ままな行動に我慢できないチョンミョンたちは「早く出て行け」と迫ります。

しかし、ジェギユたちは出て行こうとしないので、チョンミョンたちは三千拜（1回ごとに膝まずき、頭を下げて仏を拝む行為）で勝った方に従おうと提案し、ジェギユたちも受け入れます。もちろん結果は修行僧たちが勝つのですが、そこはヤクザ者、勝敗に納得がいかず、今度は自分たちに有利な花札で勝負しようとする提案、その結果、今度はジェギユたちが勝ちます。



こうした勝負事が何度か繰り返していくうちに、ジェギユたちとチョンミョンたちは、お互いに心通じ合うものが生まれてきます。

住職も、ジェギユとチョンミョンたちに問題を出します。その問題とは「底の割れた甕に水を満たせ」です。さて、皆さんはこの問題、どうクリアしますか？ 物語ではジェギユ側が勝ちます。9

映画の後半では、ジェギユとチョンミョンたちの友情が描かれており、笑いあり、感動ありの映画です。韓国ではこの映画が大ヒットになり、続編の「達磨よ、ソウルに行こう」も作られています。

話題は変わりますが、女子アイスホッケー南北統一チームが平昌オリンピックで注目されましたが、韓国女子アイスホッケー代表チーム結成に至る実話をもとにした映画「国家代表2」が2年前に韓国で上映されました、こちらもぜひ見たいです。機会がありましたら紹介します。（ソン）

◆◆行事案内◆◆

平昌オリンピック南北共同応援団報告会

～劇的に変化する朝鮮半島情勢を考える～

日時：3月21日（水・祝日）午後3時～

場所：国労大阪会館（JR天満駅下車徒歩5分）

内容：1部 平昌オリンピック報告

代表団による活動報告と感想

2部 講演「朝鮮半島情勢の現状と展望」

講師：金昌五韓統連大阪本部副代表委員

参加費：500円

主催：韓統連関西協議会 TEL06-6711-6377

とめよう戦争への道 2018関西のつどい

日時：3月24日（土）午後1時 開場

午後1時30分 開会

場所：エルシアター

（京阪・地下鉄天満橋駅下車徒歩7分）

内容：柳澤協二さん（元内閣官房副長官補）の講演
安次富浩さん（へり基地反対協共同代表）の
特別報告 他

資料代：500円

主催：しないさせない戦争協力関西ネットワーク他

問合せ：TEL06-6364-0123（中北法律事務所）

編集後記

平昌オリンピックが無事に閉幕しました。感想文を書িয়েくれた代表団も貴重な経験をしました。3月はパラリンピックです。南北の代表団も参加します。引き続き応援しましょう。（ソン）